

国立医薬品食品衛生研究所報告への投稿について

投 稿 規 定

1. 投稿資格：国立医薬品食品衛生研究所所員とする（共著者はこの限りでない）。
2. 内 容：原稿は、特論、総説、研究論文、ノート、資料、ステートメントとする。そのほか業務報告、誌上発表、単行本、行政報告、学会発表、レギュラトリーサイエンス関連会議報告などを収載する。
 - 特 論：国立医薬品食品衛生研究所の研究業務に関連する主題について、ある特定の視点から系統的に整理・論述したもので、編集委員会が執筆を依頼する。
 - 総 説：数年以上にわたって行われた著者自身の研究や調査を中心にして、特定の主題について包括的・系統的に総括したもので、投稿により受理する。
 - 研究論文：新知見を含むか、あるいは独創的な内容の研究成果をまとめたもので、投稿により受理する。
 - ノ ー ト：断片的ではあるが、新知見を含むか、あるいは独創的な内容の研究成果をまとめたもので、投稿により受理する。
 - 研究に関する資料：試験、製造又は調査などで、記録しておく必要のあるもので、投稿により受理する。
 - 標準品に関する資料：標準品に関する試験、製造又は調査などで、記録しておく必要のあるもので、投稿により受理する。
 - ステートメント：レギュラトリー関連学会などで発表した内容の報告で、投稿により受理する。
 - 業務報告：所長、各部長（支所も含む）及び各薬用植物栽培試験場の長が過去1年間（前年度）の業務成績、研究業績をまとめた報告。
 - 誌上発表：国立医薬品食品衛生研究所報告以外の専門誌に発表したものの報告。
 - 単 行 本：単独又は共同で執筆し、刊行されたものの報告。
 - 行政報告：行政の依頼により実施し、報告書を提出したものの報告。
 - 学会発表：学会で講演したりポスター発表したものの報告。
 - レギュラトリーサイエンス関連会議報告：レギュラトリー関連会議内容の報告。
3. 用紙及び枚数の制限：原則としてA4用紙（26字×24行）を用いる。原稿の長さは表、図、写真を含め刷り上がりページ数で下記の規定に従う（日本語の場合、刷り上がり1ページはA4用紙（26字×24行）で約4枚に相当する）。
 - 特 論：原稿を依頼するとき別に定める。
 - 総 説：刷り上がり15ページ以内。
 - 研究論文：刷り上がり8ページ以内。
 - ノート及び資料：刷り上がり5ページ以内。
 - ステートメント：刷り上がり2ページ以内。
 - 業務報告：各部及び各薬用植物栽培試験場について刷り上がり2ページ以内。
 - 誌上発表：一題目について要約部分が26字×20行以内。
4. 原稿の提出：原稿はワードプロセッサで作成する。特論、総説、研究論文、ノート、資料、ステートメントでは、表紙（第1頁とする）、英文要旨及びキーワード、本文、文献、図の表題と説明、表の表題と説明、図、表、英文要旨の和訳（参考）の順に通し頁番号を付け、左上をひもなどで綴じて提出する。表紙には、論文タイトル、所属、著者名に加えて、右上部に該当する分類（特論、総説、研究論文、ノート、研究に関する資料、標準品に関する資料、ステートメントなど）を、また右上部に総頁数及び図表のそれぞれの枚数を記入する。

提出部数は、特論、総説、研究論文については3部（オリジナル原稿1部及びコピー2部）、また、ノート、資料、ステートメントについては2部（オリジナル原稿1部及びコピー1部）とする。業務報告などの報告類については、オリジナル原稿1部とする。

原稿とは別に、原稿の内容（表紙、英文要旨、本文、文献、図の表題と説明、表の表題と説明など）の入ったフロッピーを添付する。フロッピーのフォーマットなどについては、その年度の「原稿募集について」に従う。

原稿とフロッピーには所長宛の報告書を添えて、定められた原稿締め切り期日までに編集委員（図書係）宛に提出する。

5. 原稿の審査：原稿の採否及び分類は、編集委員会が選んだ審査員（特論，総説，研究論文については2名，ノート，研究に関する資料，標準品に関する資料については1名）の意見に基づき編集委員会が決定する。また，必要ならば字句や表現の訂正，図表の書き直しなどを求める。

執筆規定

1. 文体，用語：常用漢字を用い，現代かなづかい，新おくりがなの，口語文とし，簡潔で理解しやすい表現にする。全文を英語で書いてもよい。
原稿の語句の統一をはかるため，おくりがな，かなで書くもの，文字の書き換え並びに述語などについては，原則として文部省用字用語例及び文部省公用文送りがな用例集に従う。〔参考：国立医薬品食品衛生研究所報告記載の手引き（用語例）〕
なお，学術用語については文部省学術用語集（化学編，植物学編，動物学編，数学編及び物理学編など）に従うことを原則とし，用語集にないものについては学会の慣例に従う。
2. 物質名，化学名：文中では物質はその名称を漢字，カタカナあるいは英語（アルファベット）で記し，化学式は用いない。例えば塩酸と書き，HCl としない。英語で書く場合，文中では原則として小文字で始める。
3. 単位，記号，略号，略記：単位は原則として国際単位系（SI）を用いる。
〔参考：国立医薬品食品衛生研究所報告記載の手引き（単位，記号，略号）〕
数字と単位記号の間は，必ず半角1文字あける。
また，物質名あるいは分析法などを略記するときは，和文，英文とも最初は正式な名称とともに示す。例えば，イソニコチン酸（INA），示差熱分析法ーガスクロマトグラフィー（DTA-GC）と書き，（以下INAと略す）などとししない。
4. 句読点：，．を用い，、。 としない。
5. 数字：算用数字（アラビア数字）を用いる。千の単位にコンマを付ける。また，必要に応じてローマ数字を用いることができ，慣用語などについては和数字を用いる（例：一般，二酸化イオウ）。
6. 繰り返し符号：「々」，「ゝ」，「ゞ」は，原則として用いない。ただし，慣用語は用いても差し支えない（例：徐々，各々）。
7. 字体の指定：文字の下に赤で次のように記す。

ゴシック体~~~~~例：見出しなど 試薬

イタリック体—————例：学名など *Papaver somniferum* L.

スモールキャピタル=====例：L-ascorbic acid

8. 特論，総説，研究論文，ノート，資料，ステートメントの記載要領：

- 8.1 記載順序：8.2～8.8の順に書く。

- 8.2 題名，著者名：次の例に従い，表紙（用紙1枚全部）をこれに当てる。なお，所外の共著者の所属は著者名の右に*印（複数のときは*1,*2...）を記して脚注とする。

例：医薬品の確認試験法に関する研究（第2報）

鎮痛剤のクロマトグラフィー

用賀 衛*・世田 一郎*1・東 京子*2

Studies on the Identification of Drugs II

Chromatographic Methods for the Analgesics

Mamoru Yoga*, Ichiro Seta*1 and Kyoko Azuma*2

また，著者の中の一人を，連絡者(Contact person)に指定し，著者名の右肩に#印を記して脚注とする。

脚注例：*To whom correspondence should be addressed:

Mamoru Yoga; Kamiyoga 1-18-1, Setagaya, Tokyo

158-8501, Japan; Tel: 03-3700-1141 ext.200;

Fax: 03-3700-6950; E-mail: mamoru@nihs.go.jp

- 8.3 英文要旨：論文の内容を400words程度で簡潔にまとめる。なお，参考のため和訳を原稿の最後に別紙として付け

る。

- 8.4 キーワード：キーワードは英語（必要に応じ，ラテン名）とし，選定数は5個以内とする。

英文要旨のあと2行あけて"Keywords"の項目を付ける。固有名詞，略語を除き，小文字で記す。各キーワードはカンマで区切り，続けて記載する。単語，句，略語のいずれを用いてもよい。特殊な場合（例：tablets）を除き，単数形とする。また，冠詞はつけない。

- 8.5 本文：新しいページから書き始める。本文のスタイルは特に規定しないが，内容の重複を避ける。図，又は表がある場合，それらの挿入位置を本文の左側の空欄に明記する。

- 8.6 文献：本文の引用箇所の右肩に¹⁾, ^{2,3)}, ⁴⁻⁶⁾のように記し，終わりに文献として引用順に書く。雑誌名は Chemical Abstracts 及び日本化学総覧の略記法による。外国雑誌名はイタリック体，巻数はゴシック体で表し，単行本は書名を省略せず，編者名や出版地も記載する。

例：

- 1) Ito, A., Suzuki, B., Tanaka, C. and Kato, D.: J.Health Sci. Review, 7, 1234-1245 (1997)
- 2) a) Yamada, E. and Takahashi, F.: Health Sci. Lett., 8, 2345-2356 (1996); b) Saito, G., Kimura, H. and Inoue, I.: Health Science Bull., 123, 3456-67 (1995); c) Ogawa, J.: ibid., 124, 12-25 (1996)
- 3) House, J. K.: "Recent Health Science," 2nd ed., eds. by Morrison, L. and Benjamin, M, Eiken Press Inc., Tokyo, pp.123-234 (1997)
- 4) 衛研一郎，厚生花子：衛研雑誌，234，456-467 (1990)
- 5) 東京子，用賀太郎：衛研報告の書き方，衛研出版社，東京，pp.234-456 (1997)

- 8.7 図：図 (Fig.) は原則として提出された原稿を70%縮小してそのまま掲載するので，本文とは別に各々一つずつをA4用紙の上に黒で鮮明に作成する。図の作成に際しては刷り上がり一段（幅84mm）か二段（幅175mm）かを考慮し，刷り上がり一段の場合には原図幅120mm，二段の場合には原図幅250mmに収まるようにする。図には通し番号を付ける (Fig.1., Fig.2., ...). 図の表題，説明は原則として英語で書く。

図番号，表題，説明は，別のA4用紙にまとめて書く。なお，表題は大文字ではじめ最後に「。」を付けない。

例：Fig.1. Influence of enzyme concentration on reductive suger production

Fig.2. Reaction of ephedrine and pseudoephedrine with acetone as a function of time

図中の文章は，原則として英語で書き明朝タイプの書体（70%縮小されたときにも読みやすい大きさの文字）を使用する。図に写真を用いる場合には，鮮明に印刷されたものを使用する。用紙の裏には，論文のタイトル，著者名，図番号及び刷り上がり段数（一段又は二段）を黒鉛筆で記入する。また，本文の左側の空欄に図の挿入位置を記入する。

- 8.8 表：表 (Table) は，本文とは別に各々一つずつをA4用紙の上に作成する。表の作成に際しては刷り上がり一段（幅84mm）か二段（幅175mm）かを考慮する。表には通し番号を付ける (Table 1., Table 2., ...). 表の表題，説明は原則として英語で書く。なお，表題は大文字ではじめ最後に「。」を付けない。

例：Table 1. Classical transgenic mice and carcinogenicity

表中の文章は，原則として英語で書く。表中の項目に関する注は項目の右肩に a), b), ... の様に記して示す。

表は，図と同じように活字の版組をしないで提出原稿をそのまま掲載することも可能である。その場合には，できるかぎり明朝タイプの書体を用いて作成し，鮮明に書き出したものを提出する。表の中に構造式や数式が含まれていたり表の構成が複雑な場合には，そのまま掲載できるような原稿が提出されるのが好ましい。

用紙の裏には，論文のタイトル，著者名及び刷り上がり段数（一段又は二段）を黒鉛筆で記入する（活字の版組をしないでそのまま掲載されることを希望する場合には，その旨も書き加える。）。また，本文の左側の空欄に表の挿入位置を記入する。

9. ステートメントの執筆上の注意：投稿内容が，レギュラトリーサイエンス関連学会などで既に発表したものである場合には，脚注に例として「本ステートメントは，日本薬学会第119回レギュラトリーサイエンス討論会（1999.3, 徳島）にて発表した内容をまとめたものである」との説明を加える。

10. 誌上発表などの記載要領：誌上発表，単行本，行政報告，学会発表については，別に定める記載要領及び例示に従う。

校 正

初校は著者が行う。人名，化学名，数値，文献などは特に綿密に校正する。内容の追加，行数の増加は認めない。

平成 11 年 11 月

国立医薬品食品衛生研究所図書委員会

国立医薬品食品衛生研究所報告記載の手引き（用語例）

注：送りがなについて__アンダーラインは注意して送るもの、□印は送らないもの。

*印は特定のものを指すときは漢字でよいもの。

分類	用 語	使 う 字	使わない字	備考
ア	あかるい	明 ^レ るい	明い	
	あきらかに	明 ^レ らかに	明かに	
	あげる	上 ^レ げる	上る	
	あたためる	→加温する		
	あたる	当 ^レ たる	当る	
	あたらしい	新 ^レ しい	新 ^レ しい	
	あてる	当 ^レ てる	当る	
	あつかる	扱 ^レ う	扱 ^レ う	
	あつめる	集 ^レ める	集る	
	あらかじめ	あらかじめ	予め	
	あらたに	新 ^レ たに	新 ^レ たに	
	あらためる	改 ^レ める		
	あらわす	表（現）す	表（現）わす 表→表面に出し 示す。著わ す 現→かくさずに 示す	
	あらゆる	あらゆる	全る	
イ	ある	ある	在る，有る	
	あるいは	あるいは	或は	
	あわ	あわ	泡	
	あわす	合 ^レ わす	合す	
	いう	いう	言う	
	いくぶん	いくぶん	幾分	
	いずれ	いずれ	何れ	
	いちじるしい	著 ^レ しい	著 ^レ しい	
	いっかねん	一カ年	1箇年，一ケ年	
	いっそう	一層	いっそう	
	いったん	一端	いったん	
	いって	いって	行 ^レ って	
	いる	いる	居る	
	いる	入る	入る	
	いれる	入 ^レ れる	入る	
	いわゆる	いわゆる	所謂	
ウ	うしなう	失 ^レ う		
	うすい（物）	薄 ^レ い	薄 ^レ い	
	うすい（色）	うすい		
	うすめる	→希釈する	薄める	
	うちに	うちに	内に，中に	
	うながす	促 ^レ す	促 ^レ す	
	うる	うる	得る（can or may） →える	
	うるおす	潤 ^レ す	潤 ^レ す	
	えがく	描 ^レ く	画 ^レ く	
	えらぶ	選 ^レ ぶ		
エ	える	得る	（get）→うる	
	おいて	おいて	於いて	
オ	おおう	覆 ^レ う	被 ^レ う	

分類	用 語	使 う 字	使わない字	備考
オ	おおきい	大 ^レ きい	大い	
	おおむね	おおむね	概 ^レ ね	
	おこなう	行 ^レ う	行 ^レ う	
	おこる	起 ^レ こる	起る	
	おそらく	恐 ^レ らく		
	おそれ	おそれ	恐れ，畏れ	
	おだやかに	穏やかに	おだやかに	
	おとし	落 ^レ とし	落し	
	おのおの	各々	おのおの	
	おのずから	おのずから	自ら	
	おびる	帯 ^レ びる		
	おもな	主 ^レ な	おもな	
	およそ	およそ	凡そ	
	および	及 ^レ び		
	おわる	終 ^レ わる	終る	
カ	かえす	返 ^レ す	返 ^レ す	
	かえって	かえって	却 ^レ て	
	かかわらず	かかわらず	拘 ^レ らず	
	かける	欠 ^レ ける	欠る	
	かさねる	重 ^レ ねる		
	かつ	かつ	且 ^レ つ	
	かつしよく	褐色	かつ色	
	かならず	必 ^レ ず	必 ^レ ず	
	かねる	兼 ^レ ねる	兼る	
	～から	○～から作る， △～から再結晶 よりは使わない		
	がらす	ガラス	硝子	
	かわる	代 ^レ わる	代る （代理・代人など）	
	かわる	変 ^レ わる	変る（うつりか わる，変化）	
	カ月	カ月	箇月	
	10カ所	10カ所	10ヶ所，10箇所	
キ	きしゃく	希釈		
	きめる	決 ^レ める	決る	
	きりあげ	切 ^レ 上げ	切りあげ	
	きわめて	極 ^レ めて	きわめて	
ク	くふう	工夫	くふう	
	くらい（助詞）	くらい	位	
	くらべる	比 ^レ べる	比る	
	くりかえす	繰 ^レ り返 ^レ す	繰返 ^レ す	
	くみあわせ	組 ^レ 合せ（名詞） 組 ^レ み合せ（動詞）		
ケ	けんだく	懸濁	けんだく	
コ	こえる	超 ^レ える	越 ^レ える	
	こげる	焦 ^レ げる	焦る	
	ここ	こ	此処	
	こころみる	試 ^レ みる	試る	

分類	用 語	使 う 字	使わない字 備考
コ	こたえ こたえる こと ごと ことなる ことに この こまかい (洗い) こむ これ これら	答え こたえる こと ごと 異なる 殊に この 細かい (洗い) 込む これ これら	答 (表中) 応える 事* 毎 異なる 此の 細い 之 此等, これ等
サ	さきに さける さげる さしこむ さしつかえない さまざま さら さらに	先に 避ける 下げる さし込む 差し支えない 様々 皿 更に	さきに 避る 下る 挿し込む(挿入) 差支えない さら
シ	しかし しがたい しげき したがう したがって したのち (に) しばしば しぶい しまう しめす しめる しゃこう しやすい しゅうまつてん じゅうぶん しょうじる じょうりゅう じょじょに しらべる	しかし し難い 刺激 従う したがって (接 続詞) 従って (動詞) した後 (に) しばしば 渋い しまう 示す 湿る 遮光 しやすい →終点 充分, 十分 生じる 蒸溜 徐々に 調べる	然し, 併し, 而し 刺戟 したがう 屢々 しぶい 終う, 了う 湿 ^ぬ る しゃ光 し易い, 仕易い 終末点 じゅうぶん 生ずる 蒸溜 調る
ス	すくない ずつ すてる すでに すなわち すべて すみやかに	少ない ずつ 捨てる 既に すなわち すべて 速やかに	少い 宛 捨る すでに 即ち 総て, 凡て, 全て すみやかに
セ	せん せんじょう	栓 洗淨	せん, セン 洗滌
ソ	そう そうにゅう そこ その そのほか	浴う 挿入 そこ その そのほか	そう入 其処 其の 其の他

分類	用 語	使 う 字	使わない字 備考
ソ	それぞれ	それぞれ	夫々
タ	だいたい たいてい たえず たがいに たしかめる だす ただ ただし ただちに たとえば ために	大体 大抵 絶えず 互いに 確かめる だす ただ ただし 直ちに 例え ために	だいたい たいてい 絶ず たがいに 確める 出す 唯、只 但し 直に たとえば 為に
チ	ちいさい ちかづく ちょうど ちょっと	小さい 近づく ちょうど ちょっと	小い 近付く, 近づく 丁度 一寸
ツ	ついて ついで づつ つぎに つくる つける つめる つねに	ついて 次いで ずつ 次に 作る 付ける 詰める 常に	就いて, 付いて 宛 つぎに
テ	ていする できる	呈する できる	出来る
ト	とおり とき ときどき とくに どこ ところ ともせん ともなう ともに とりあつかい	とおり とき 時々 特に どこ ところ 共栓 伴う 共に 取扱い (名詞) 取り扱い (動詞)	通り 時* ときどき 何処 所* 共せん 伴 ^な う
ナ	ないし なお なかば ながら なづける など ならびに なるべく	ないし なお 半ば ながら 名付ける など 並びに なるべく	乃至 尚 中ば 乍ら 名づける 等 成べく, 成る可く
ニ	にかわじょう にごる にそう にゅうばち	にかわ状 濁る 二層 乳鉢	膠状 2層 乳ばち
ヌ	ぬぐう ぬらす	ぬぐう ぬらす	拭う 濡らす

分類	用 語	使 う 字	使わない字 備考
ネ	ねんちゅう	粘稠	
ノ	のぞく のちに のべる のり	除く 後に 述べる のり	のちに 述る 糊
ハ	はかり はかる はじめて はじめの はじめる はやい	はかり 量る 初めて 初めの 始める 速い	秤 測る, 計る →当用漢字 初て
ヒ	ひとしい ひとつ ひとつづつ	等しい 一つ 一つづつ	
フ	ふきん ふくぎつ ふたたび ふりまぜる ふれる	付近 複雑 再び 津り混ぜる 触れる	附近 振混ぜる 触る
ホ	ほか ほど ほとんど ほほ	ほか ほど ほとんど ほほ	他, 外 程 殆んど 略々, 略ほ
マ	ますます まぜあわせ まぜる また または まだ まったく まで まま	ますます 混合せ (名詞) 混ぜ合せ (動詞) 混ぜる また 又は まだ 全く まで まま	益々 混る 又, 亦, 復 未だ 迄 儘
ミ	みたす みとめる みなす	満たす 認める みなす	満す, 充たす 認る 見なす, 見做す
ム	むしろ むずかしい むすぶ	むしろ 難しい 結ぶ	寧ろ 六ヶ敷しい 結 _団 ぶ
メ	めずらしい	珍しい	珍しい
モ	もうしこみ もえる もし もしくは もちいる もちろん もって	申し込み (申込み, 申込) 燃える もし 若しくは 用いる もちろん もって	燃る 若し 用る 勿論 以て

分類	用 語	使 う 字	使わない字 備考
モ	もつとも もっぱら もどす もとに もとづく もの もる	最も 専ら 戻す (もどす) 下に 基づく もの 漏る	もっぱら 許に 基く 物*, 者*
ヤ	やすい やはり やむをえず 止むを得ず やや やわらかい	やすい やはり やむを得ず やや 柔らかい	易い 矢張り 稍々 柔い, 軟かい
ユ	ゆえ ゆく	ゆえ 行く	故
ヨ	よい ように ようす ようだ (に) ようやく ようゆう よほど よる より	よい 容易に 様子 ようだ (に) ようやく →融解 よほど よる 比較するときに用いる. 例: ○○より△△が大きい	好い, 良い ようす 様だ (に) 漸く 熔融 余程 依る, 因る
ラ	ら	ら	等
リ	りゅうぶん りんぱ	留分 リンパ	溜分 淋巴, りんぱ
ロ	ろう ろうと ろかする	ろう 漏斗 ろ過する	蠟 (正名はロウ)
ワ	わかる わける わずかに わたって	わかる 分ける わずかに わたって	分る, 判る, 解る 分る 僅かに 互って

国立医薬品食品衛生研究所報告記載の手引き（単位，記号，略号）

1. SI 基本単位の名称と記号

量	単位の名称	単位の記号	量	単位の名称	単位の記号
長さ	メートル	m	熱力学温度	ケルビン	K
質量	キログラム	kg	物質質量	モル	mol
時間	秒	s	光度	カンデラ	cd
電流	アンペア	A			

従来用いられてきた重量はほぼ質量に置き換えられるが，当面は用語を併用できる。

2. SI 接頭語

SI 単位の10の整数乗倍を表すために，SI 接頭語が使われる。それらかの名称と記号は次のとおりである。

倍数	接頭語	記号	倍数	接頭語	記号
10	デカ (daca)	da	10^{-1}	デシ (deci)	d
10^2	ヘクト (hecto)	h	10^{-2}	センチ (centi)	c
10^3	キロ (kilo)	k	10^{-3}	ミリ (milli)	m
10^6	メガ (mega)	M	10^{-6}	マイクロ (micro)	μ
10^9	ギガ (giga)	G	10^{-9}	ナノ (nano)	n
10^{12}	テラ (tera)	T	10^{-12}	ピコ (pico)	p
10^{15}	ペタ (peta)	P	10^{-15}	フェムト (femto)	f
10^{18}	エクサ (exa)	E	10^{-18}	アト (atto)	a

例えば，長さの単位 m の 10^3 倍は km， 10^{-2} 倍は cm， 10^{-3} 倍は mm， 10^{-6} 倍は μ m， 10^{-9} 倍は nm となる。ただし，質量の単位の整数乗倍は，グラムに接頭語をつけて表示する。例えば，mg は μ kg と記さない。

3. 特別の名称と記号を持つ SI 組立単位の例

量	単位の名称	単位の記号	量	単位の名称	単位の記号
周波数	ヘルツ	Hz	電気抵抗	オーム	Ω
力	ニュートン	N	コンダクタンス	ジーメンズ	S
圧力	パスカル	Pa	磁束	ウェーバ	W
エネルギー，仕事，熱量	ジュール	J	磁束密度	テスラ	T
仕事率，電力	ワット	W	インダクタンス	ヘンリー	H
電荷	クーロン	C	セルシウス温度	セルシウス度	$^{\circ}\text{C}$
電位	ボルト	V	平面角	ラジアン	rad
静電容量	ファラド	F	立体角	ステラジアン	sr
照度	ルクス	lx	光束	ルーメン	lm
吸収線量	グレイ	Gy	放射能	ベクレル	Bq
			線量当量	シーベルト	Sv

4. SI と併用される SI 以外の単位の例

量	単位の名称	単位の記号	量	単位の名称	単位の記号
時間	分	min	質量	トン	t
	時	h	圧力	バール	bar
	日	d	エネルギー	電子ボルト	eV
体積	リットル	l, L	平面角	度	$^{\circ}$

また，圧力は SI 単位ではパスカルであるが，血圧等の体内圧力に関しては混乱を避けるため，mmHg を使用できる。

5. その他よく用いられる量と単位記号の例

面積	m^2, cm^2	体積	$\text{m}^3, \text{cm}^3, \text{l}, \text{ml}$	速さ	m/s
加速度	m/S^2	波数	cm^{-1}	密度	$\text{kg}/\text{m}^3, \text{g}/\text{cm}^3, \text{g}/\text{ml}$
電流密度	A/m^2	磁場の強さ	A/m	モル濃度	mol/l
輝度	cd/m^2	粘度	$\text{Pa} \cdot \text{s}$	動粘度	m^2/s
質量百分率	%	質量百万分率	ppm	質量十億分率	ppb
体積百分率	vol%	湿度百分率	%	回転速度	r/s
エンドトキシン単位	EU				

6. よく用いられる記号, 略号

融点	mp	ミハエリス定数	<i>Km</i>	標準偏差値	S.D.
分解点	mp (dec.)	Rf 値	<i>Rf</i>	標準誤差	S.E.
沸点	bp	保持時間	<i>tr</i>	紫外吸収	UV
凝固点	fp	50%致死量	LD ₅₀	赤外吸収	IR
比重	<i>d</i>	50%有効量	ED ₅₀	核磁気共鳴	NMR
屈折率	<i>n</i>	経口投与	p.o.	電子スピン共鳴	ESR
施光度	α	静脈投与	i.v.	施光分散	ORD
吸光度	<i>A</i>	腹腔投与	i.p.	円偏光二色性	CD
水素イオン指数	pH	皮下投与	s.c.	マススペクトル	MS
pK 値	<i>pK</i>	筋肉投与	i.m.		

編集後記

所員の皆様の多大なご協力のおかげで、無事編集を終えることができました。編集委員各位、図書係はもちろん、ご多忙中にもかかわらず快く原稿依頼を引き受けてくださった著者の方々に心よりお礼申し上げます。今年度は編集上2点の改革がありました。一つは英文概要の校正を行うことにしたことであり、もう一つは新たに著者索引を設けたことでもあります。いずれも質的、あるいは利用上の改善に役立てばと願っています。また本報告書の名前の変換に伴い、略称も「国立衛研報」としました。(K.T.)

また1つ、巻を重ねた。確実に一つ、歳を重ねた。この1年で自分は何が出来ただろう。そう思って業績欄を見ると、おびただしい数の論文が今年も、当所から発信されていることに驚く。これらの研究成果に見合うだけ当所がちゃんと評価されているのかと思いを巡らすとき、広報の重要性を改めて感じる。(K.O.)

入所十数年目にして初めて編集委員(図書委員)を勤めさせていただき、衛研報告の舞台裏を知ることができました。審査員の先生方には急なお願いにもかかわらず丁寧に査読していただきありがとうございました。それにしても、ワープロで入力した書式付きの文章をわざわざテキスト形式に変換、出力して校正記号を記入する、という作業がもどかしくて、来年度からは是非、衛研報告のDTP化を目指しましょう。(H.J.)

今回初めて編集委員を経験しました。衛研報告の在り方については、投稿論文の内容、英文チェック、審査制度等に関して各委員の考えが少しずつ異なるように感じました。もっと議論すべきだったかもしれません。とは言っても時間の制約もあり、例年通りに発刊するだけでも大変なことですけど、最近、総説が増えて論文誌として充実してきたように思いますので、研究論文と業務報告等との分冊にするというのはどうでしょうか。(S.S.)

今年度は、担当した論文の審査に関して、筆者と審査委員の間にたって、少し手間取った感があります。論文を提出する時、投稿規定に従い、完全な形で提出をお願いしたいと思います。また、今年は、著者索引を設けるなど新しい試みが導入されましたが、衛研報告が、衛生科学領域の情報誌として、大いに活用されることを願っています。(R.T.)

今回はじめて編集委員をさせていただきました。会議や編集作業、また日頃自分がなかなか目を通す機会の少ない分野の論文まで拝見させていただき、すべてが初体験なのでいろいろと勉強になりました。とはいえ、編集半ばで長期の出張をしてしまい、多くの仕事を研究室の方にご協力いただいたこと、また細部まで査読してくださった審査員の先生方、および図書係の川島さんにこの場を借りて御礼申し上げます。(Y.S.)

今回、初めて編集に参加いたしました。100年以上の歴史のある衛研報告であっても、常に進化が求められているということを実感しました。(M.S.)

「国立衛研報」の編集委員を初めて担当し、これまでの編集後記も初めて読みました。皆さんご苦労さまでした。また、表面に出ない審査委員の方々にお礼申し上げます。私も関わった以上、少しでも良いものにと努力しましたが、結果はどうでしょうか。要旨が外部に校閲して載けて良かったですね。(S.T.)

衛研報告の編集に携わること3年目、4月の原稿募集に始まり、投稿原稿の審査を経て原稿の最終校正と、毎年同じスケジュールをこなすわけですが、今年も発行日ぎりぎりまでの調整に終わってしまい、著者の方々や図書委員の方々には大変ご迷惑をお掛けいたしました。この編集後記には、編集過程にあった事について書くものと思いますが、毎年反省文のようなものになってしまいます。(S.K.)

平成11年度図書委員

三瀬勝利	神沼二真	*棚元憲一	香取典子
小林哲	*小野景義	五十嵐良明	*神野透人
*宮原誠	久保田浩樹	*末吉祥子	*手島玲子
*佐藤陽治	宮原美知子	関田清司	*簾内桃子
*渋谷淳	増村健一	広瀬明彦	岩崎仁
*辻澄子	下村講一郎	*川島伸一	

(*は編集委員)

国立医薬品食品衛生研究所報告 第117号

平成11年11月10日 印刷

平成11年11月15日 発行

発行所 国立医薬品食品衛生研究所化学物質情報部
東京都世田谷区上用賀1丁目18番1号

印刷所 大和綜合印刷株式会社
東京都千代田区飯田橋1丁目12番11号